

参考資料

道内6地域の産業構造等の推移 (昭和60年～平成23年) 概要版

平成30年3月

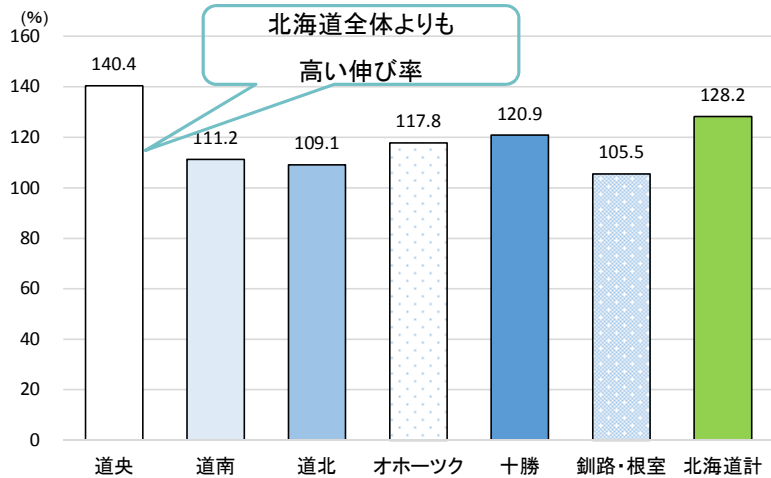
国土交通省北海道開発局



○道央の生産額は、全ての年次において他の5地域より大きく、北海道全体の生産額の約6割を占めている。
また、道央の交易金額は、北海道全体の交易金額の約8割を占めており、「道央」への一極集中が表れている。

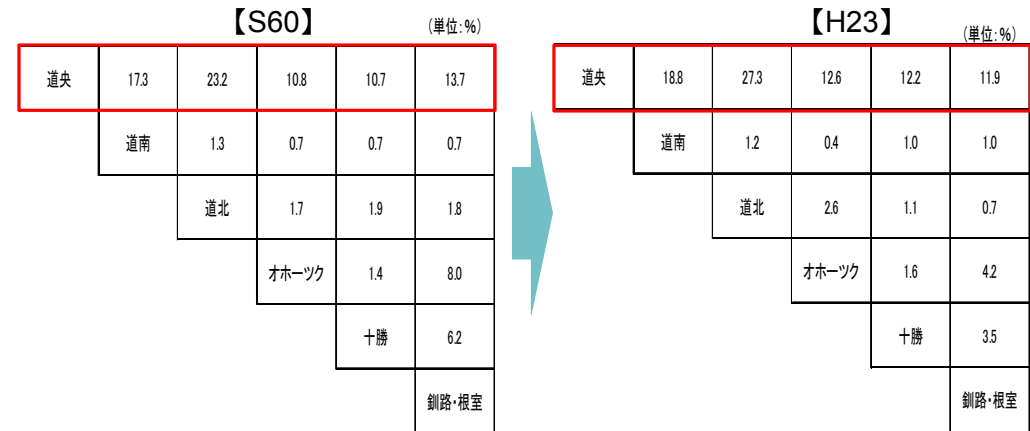
【図1 地域別の生産額の伸び率(H23/S60)】

○全ての地域で増加。特に、「道央」の伸び率が高い。



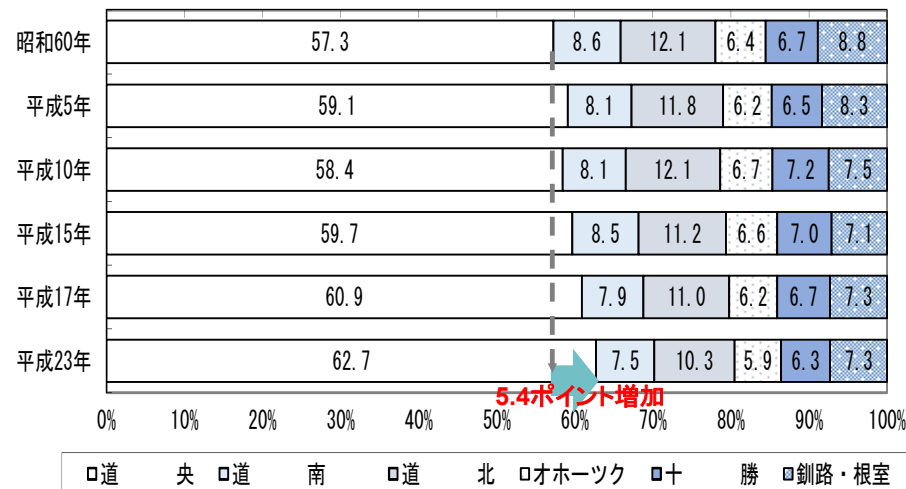
【図3 各地域間の交易割合】

○「道央」と他5地域の交易割合は、全て10%超



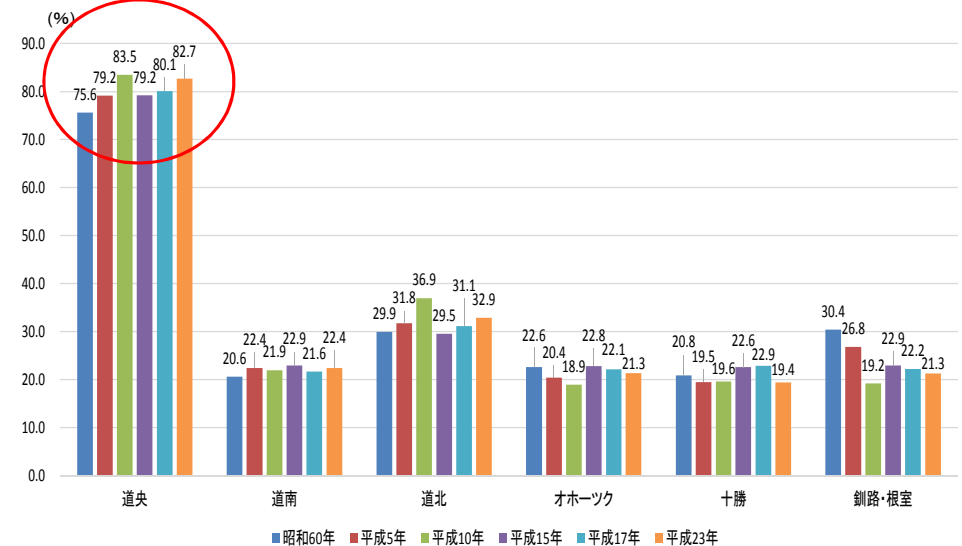
【図2 道内生産額に占める地域別生産額の割合の推移】

○北海道全体の生産額に占める「道央」の割合は、約6割で増加傾向



【図4 各地域間の交易割合の推移】

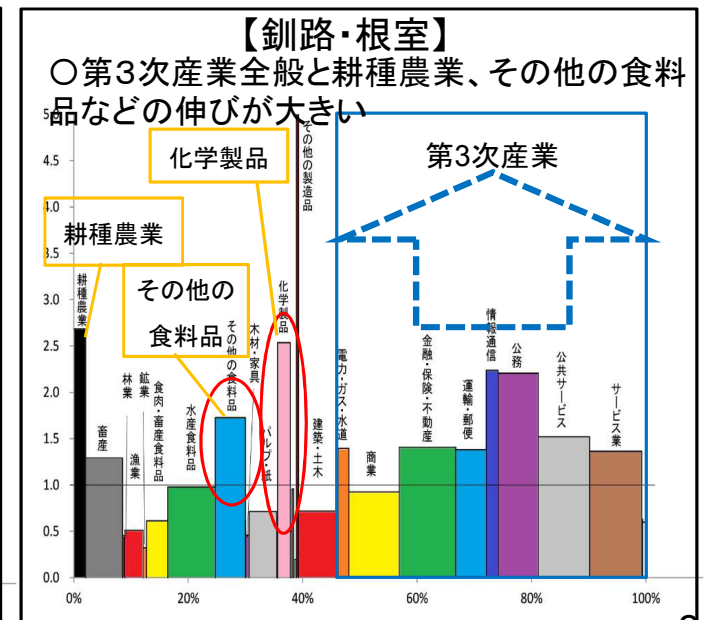
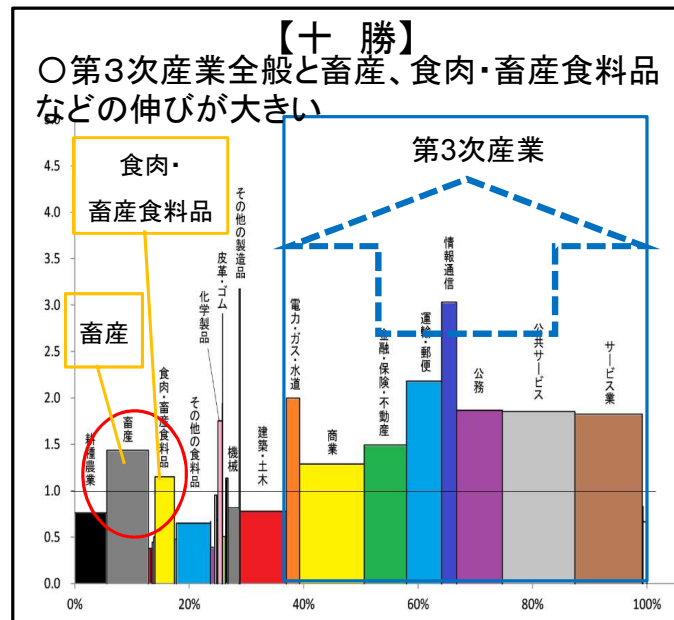
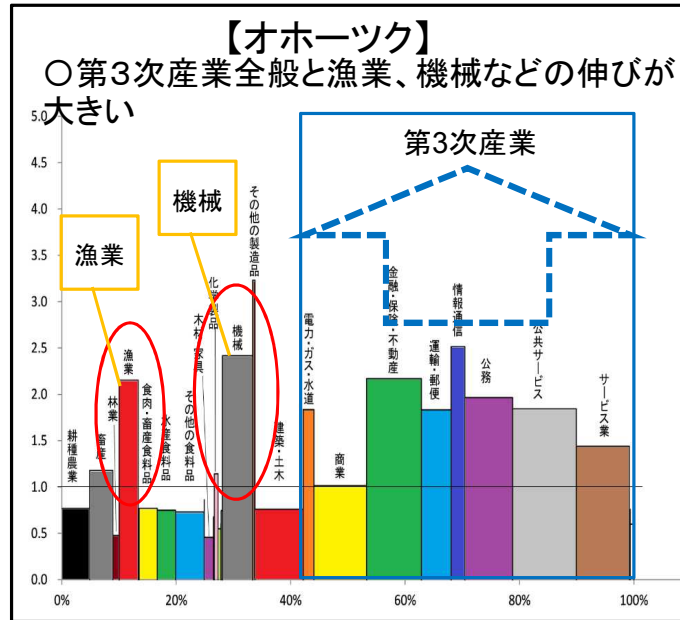
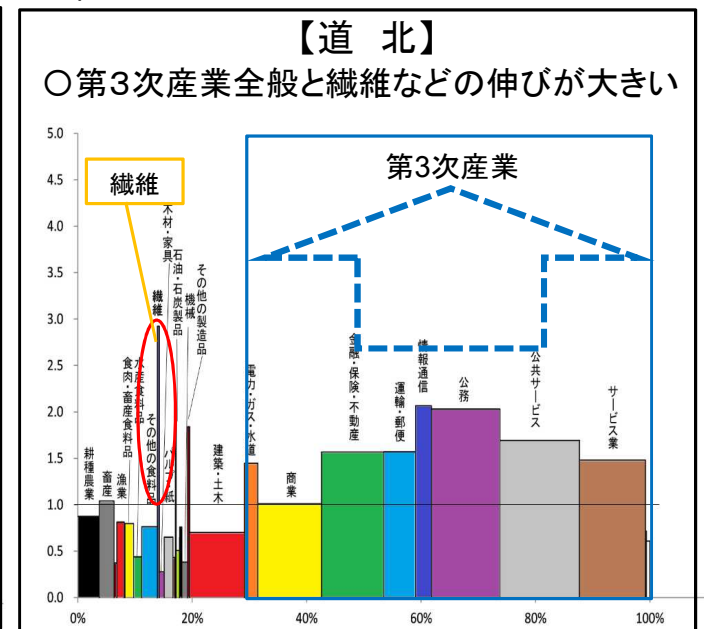
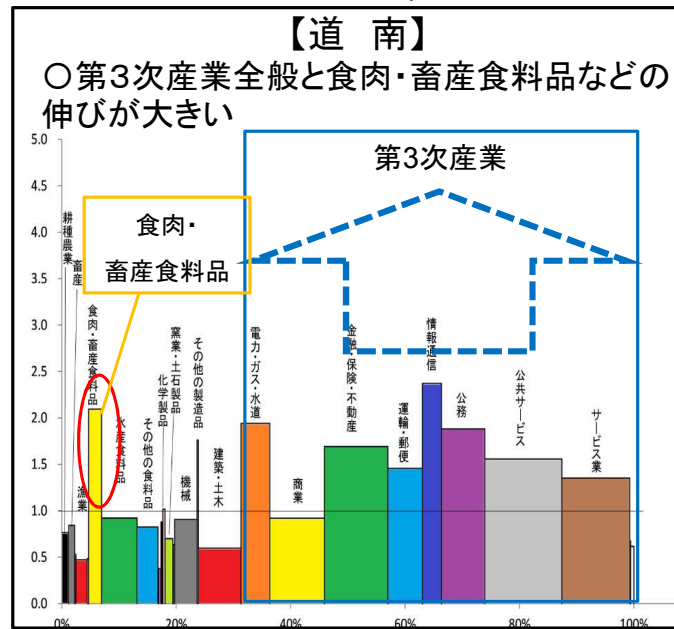
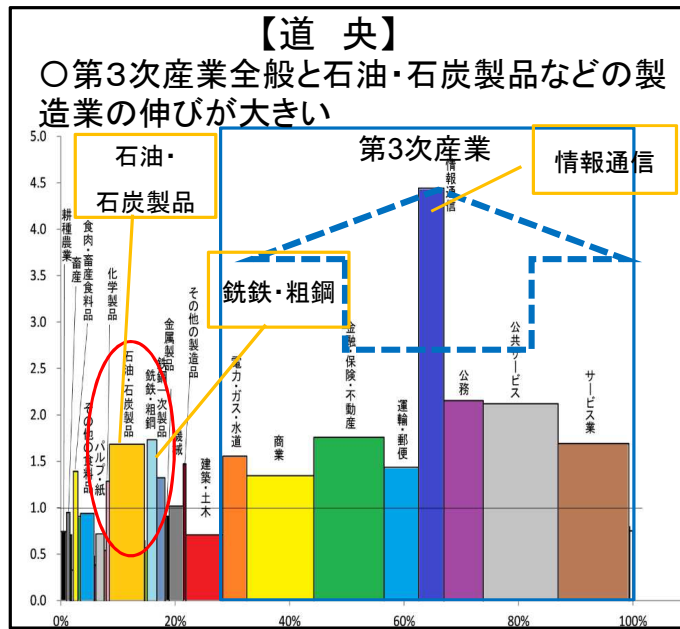
○「道央」と他5地域の割合合計は、全体8割超



道内6地域の産業構造(生産額)の推移(S60とH23)

○各地域の生産額を産業別構成比と伸び率(H23/S60)でみると、全ての地域で情報通信などの第3次産業全般の伸びが大きい。また、道央は石油・石炭製品、銑鉄・粗鋼などの製造業の伸びが大きい。その他の5地域は第1次産業や関連食品産業などの伸びが大きい。

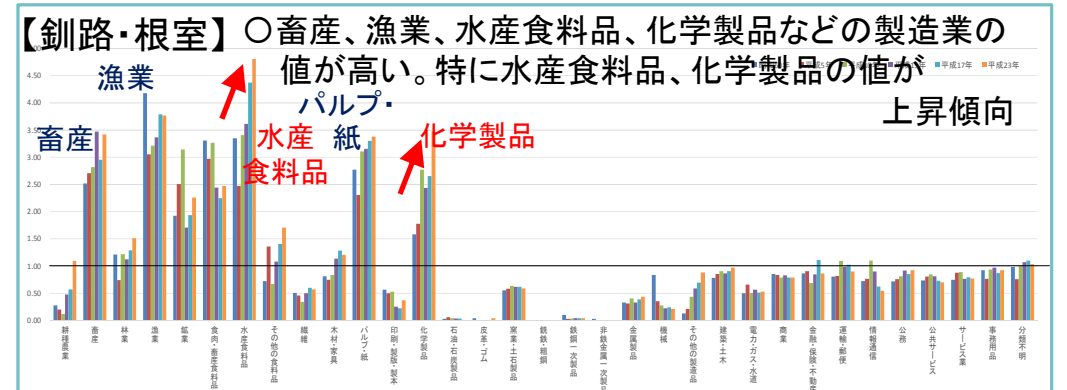
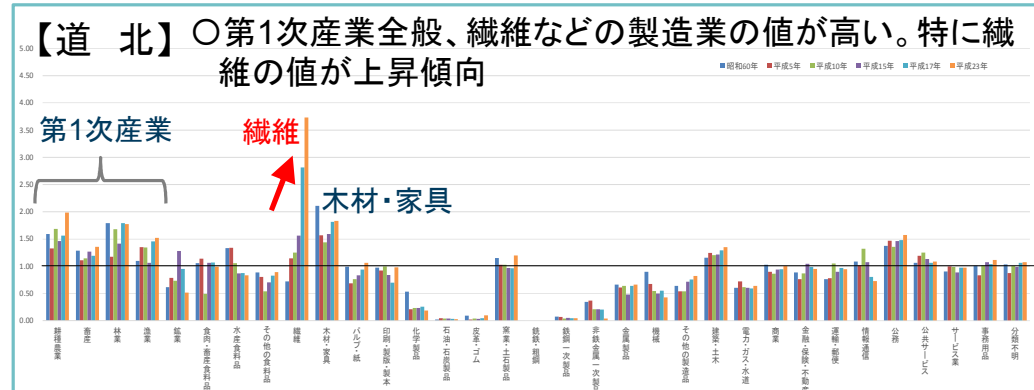
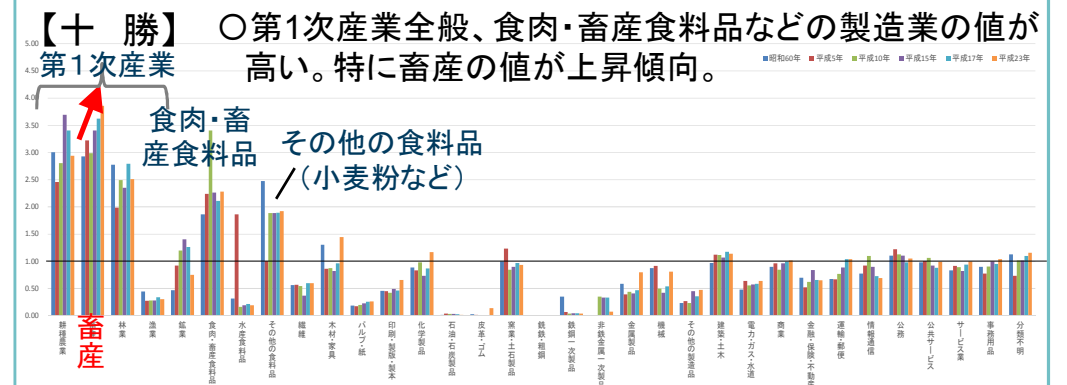
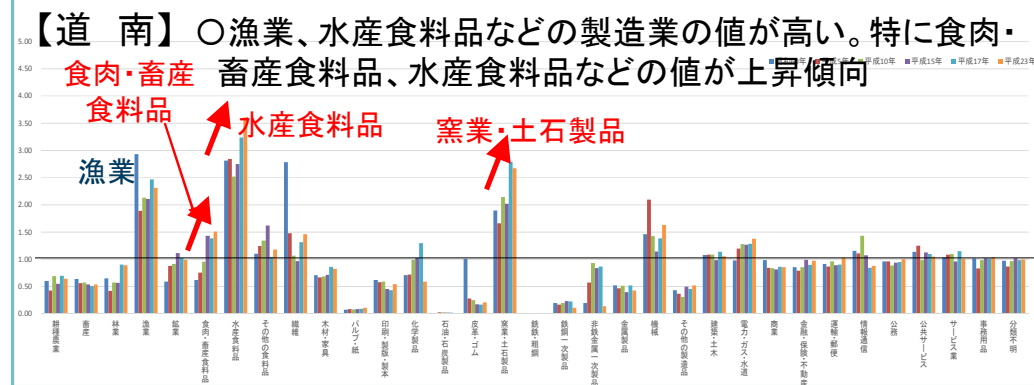
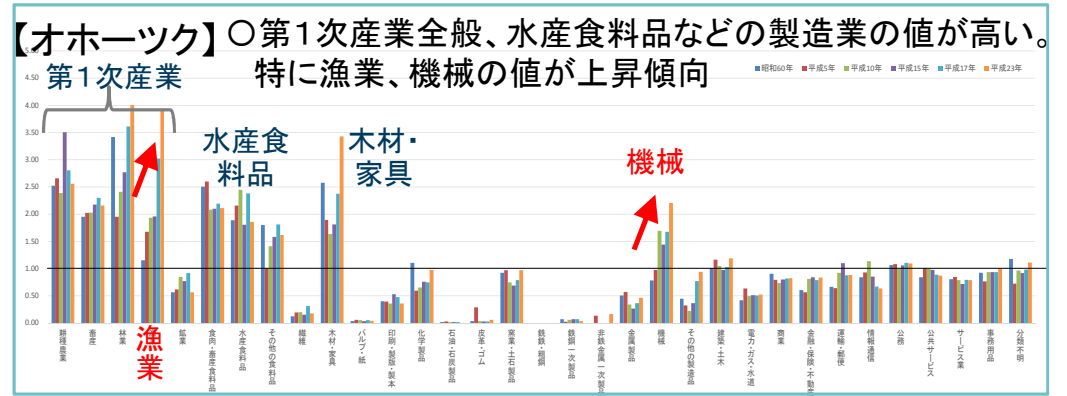
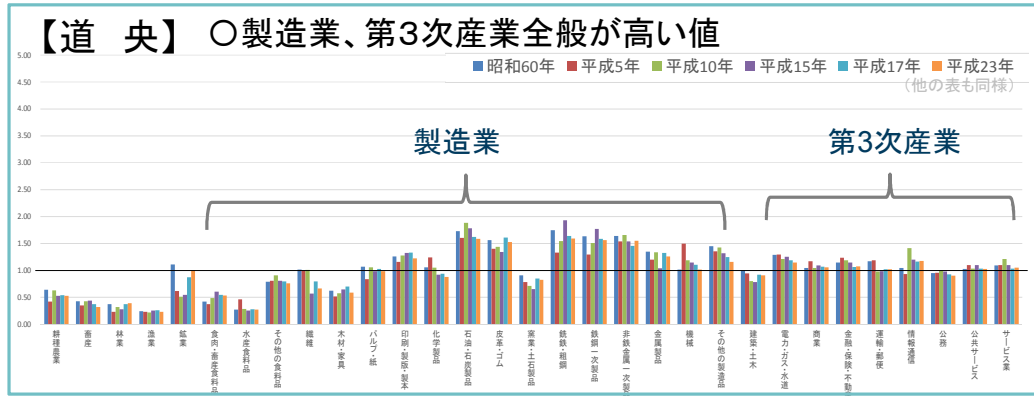
【図5 地域別生産額の伸び率(H23/S60)と産業別構成比(H23)(33部門)】



※縦軸に伸び率(H23/S60)、横軸に産業構成比(H23)で図示したものである。

○各地域の産業別特化係数(※)でみると、道央は製造業や第3次産業全般が「1」を超えている。その他の5地域は第1次産業、関連食品産業などの製造業の値が高い。

【図6 地域別産業別特化係数(33部門)の推移】

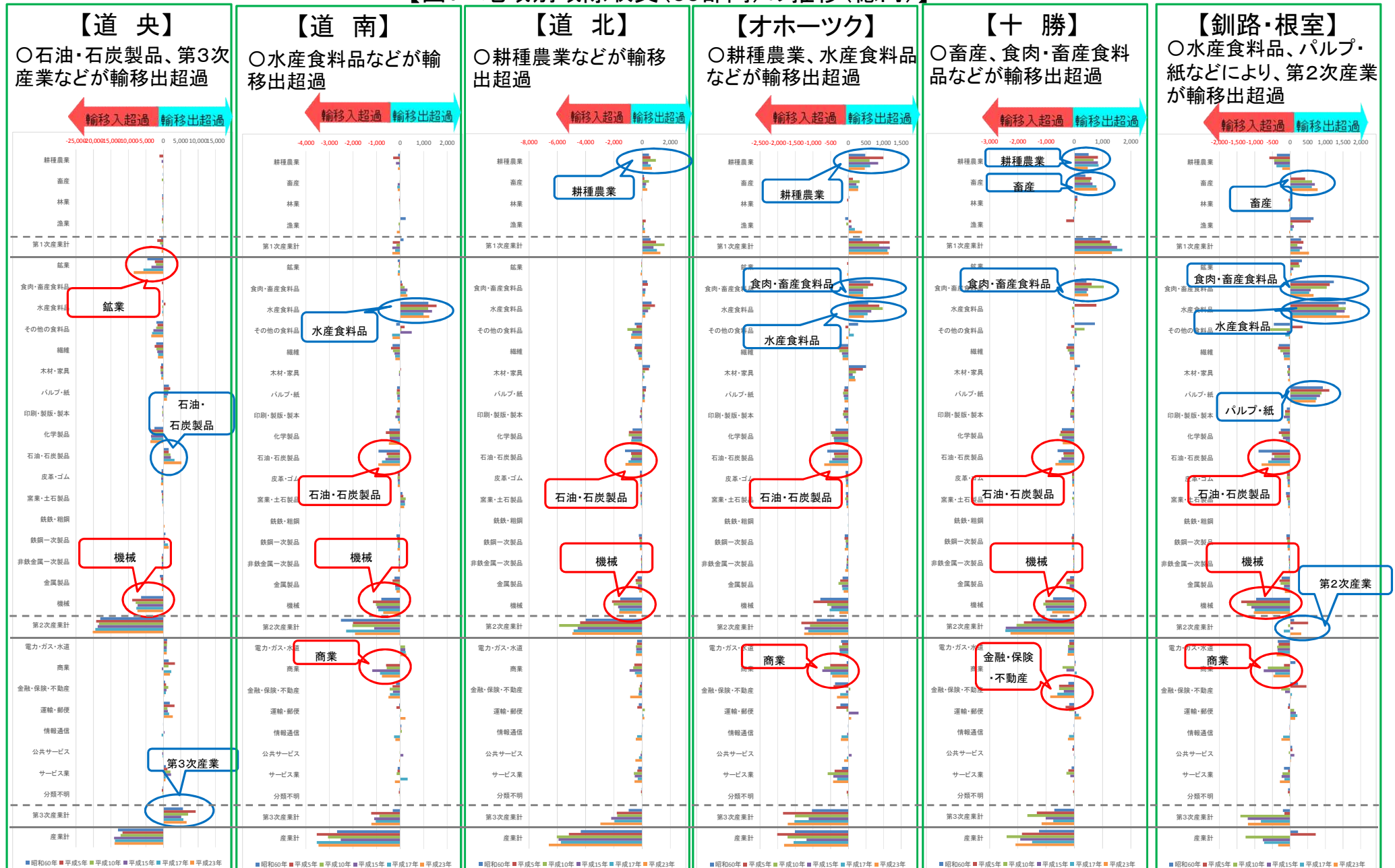


※特化係数とは、産業別生産額の割合を、対応する道内生産額の産業別の割合で除して求めた係数である。「1」であれば、地域における当該産業の生産額の割合が、道内全体における割合と同じであることを示す。

道内6地域の域際収支の推移(S60~H23)

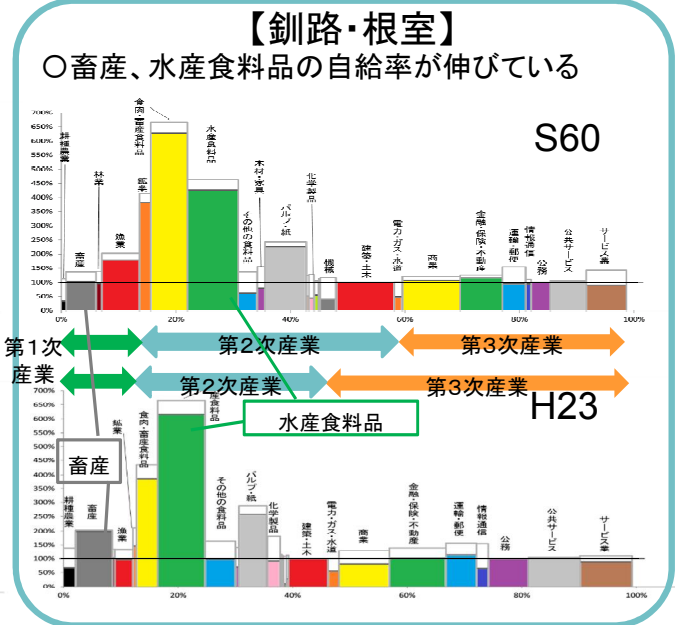
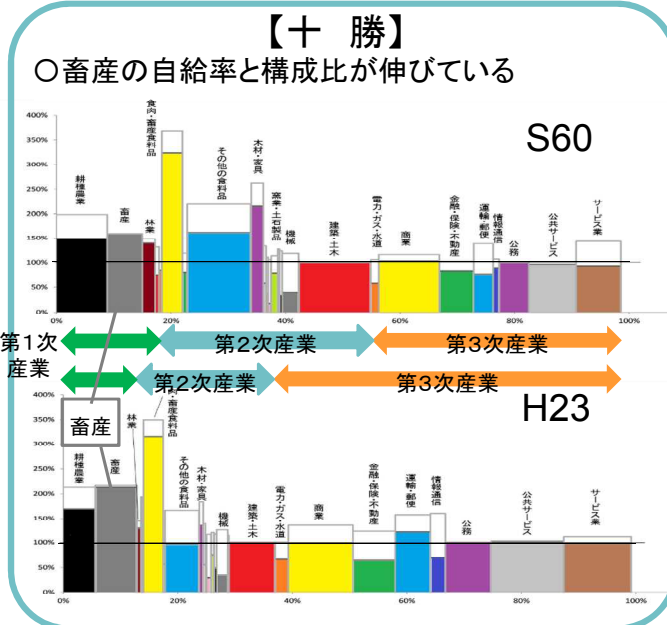
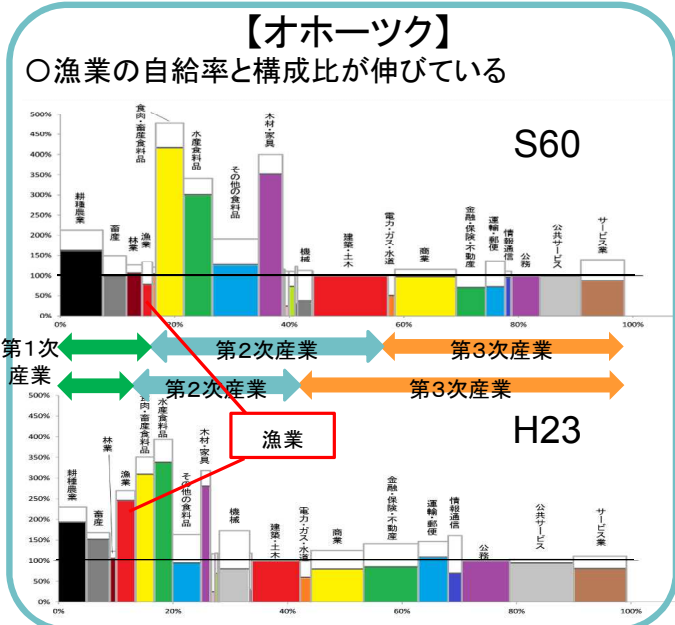
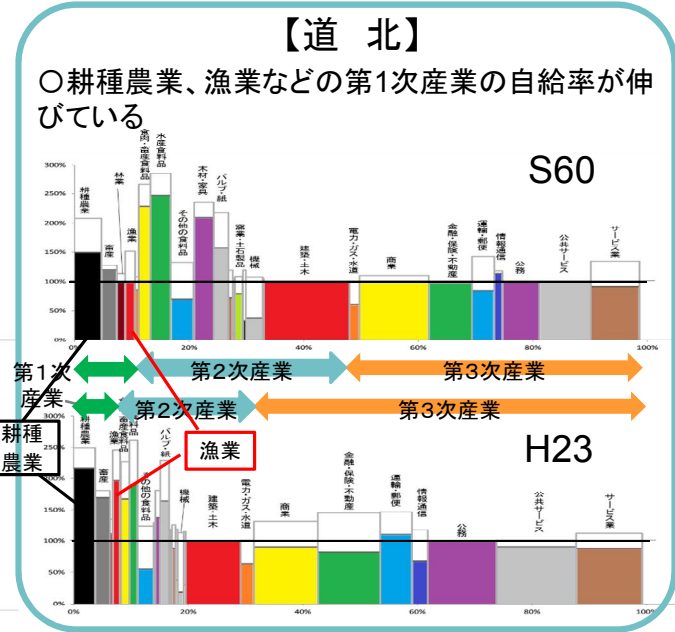
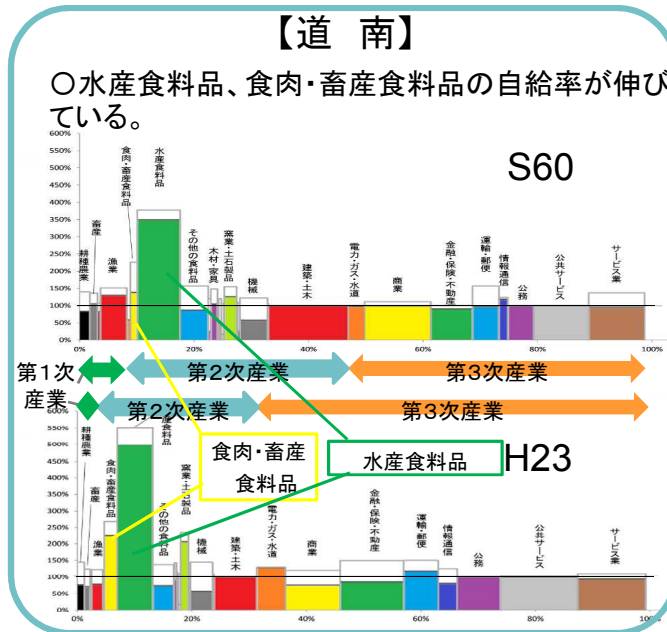
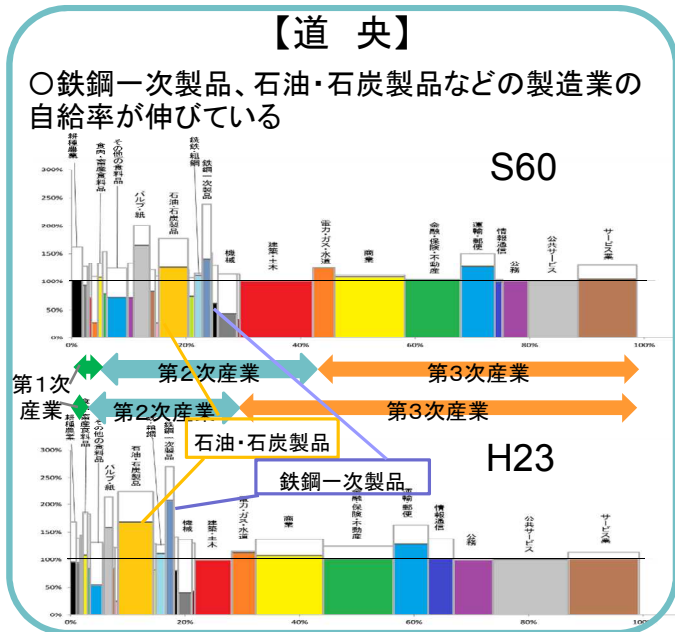
○各地域の域際収支をみると、道央は第3次産業が輸移出超過、他の5地域は第1次産業、関連食品産業などが輸移出超過であるが、第2次産業(主に機械、道央以外の地域では石油・石炭製品)や第3次産業の輸移入超過により、合計では、6地域すべてが輸移入超過となっている。

【図7 地域別域際収支(33部門)の推移(億円)】



○各地域の域内需要に対する自給率と産業構成比を表したスカイラインチャート(※)で昭和60年と平成23年を比べてみると、全ての地域で、第1次産業と第2次産業の産業構成比は小さくなっている。道央以外の地域では、第1次産業、関連食品産業などの自給率が伸びている。

【図10 地域別スカイラインチャート(33部門)】



※スカイラインチャートについては、次項をご覧ください

1. スカイランチャートとは、縦軸に各産業部門の域内需要を1(100%)として、域内生産、輸移出、輸移入の比率を表し、投入産出構造と他地域との取引構造との関係を示し、横軸に地域内における産業別生産額の構成比を図示したものです。
これを用いることで、地域内において、どの産業が他地域の需要に対応できる生産力を持っているか、どの産業が他地域からの輸移入に依存しているかをみることができます。
例えば、ある産業の域内需要と域内生産が同額の場合は、縦軸で色付き部分が100%となります。100%を超えている色付き部分は、他地域への輸移出となります。
2. 「図7 地域別域際収支(33部門)の推移」では、域際収支が「0」である建築・土木、公務、事務用品を除いています。
3. 3部門分類の内訳(33部門)は以下のとおり
第1次産業: 耕種農業、畜産、林業、漁業
第2次産業: 鉱業、製造業(食肉・畜産食料品、水産食料品、その他の食料品、繊維、木材・家具、パルプ・紙、印刷・製版・製本、化学製品、石油・石炭製品、皮革・ゴム、窯業・土石製品、銑鉄・粗鋼、鉄鋼一次製品、非鉄金属一次製品、金属製品、機械、その他の製造品、事務用品)、建築・土木
第3次産業: 電力・ガス・水道、商業、金融・保険・不動産、運輸・郵便、情報通信、公務、公共サービス、サービス業、分類不明
4. 昭和60年、平成5、10、15、17年表の数値、係数等は、平成23年北海道産業連関表の部門分類コードとの対応関係を勘案して簡易に組替集計したものであり、部門毎の概念、定義、範囲等を詳細に組み替えたものではないので、注意を要します。
5. 昭和60年、平成5年地域間表は、道央、道南、道北、道東の4地域で作成されていたため、道東をオホーツク、十勝、釧路・根室の3地域の数値・係数等は、簡易に分割・推計しています。